【SR-7　評価シート　エビデンス総体　記入例（観察研究）】

診療ガイドライン	自己免疫性肝炎
対象	自己免疫性肝炎
介入	PSL+AZA または PSL 単独
対照	無治療

＊バイアスリスク，非直接性
　各ドメインの評価は「高（−2)」,「中／疑い（−1)」,「低（0)」の 3 段階。
　まとめは「高（−2)」,「中（−1)」,「低（0)」の 3 段階でエビデンス総体に反映させる。
＊＊上昇要因
　　各項目の評価は「高（+2)」,「中（+1)」,「低（0)」の 3 段階。
　　まとめは「高（+2)」,「中（+1)」,「低（0）の 3 段階でエビデンス総体に反映させる。
アウトカムごとに別紙にまとめる。

エビデンス総体

								リスク人数（アウトカム率）												
アウトカム	研究デザイン／研究数	バイアスリスク*	非一貫性*	不精確性*	非直接性*	その他（出版バイアスなど）*	上昇要因（観察研究）*	対照群分母	対照群分子	(%)	介入群分母	介入群分子	(%)	効果指標（種類）	効果指標統合値	95％信頼区間	エビデンスの強さ**	重要性***	コメント
生化学的・組織学的寛解	コホート研究／3	−2	0	−1	−2			8	7	0.9	540	101	0.187	NA	NA	NA	弱（C）	8	PSL + AZA または PSL 単独は寛解導入に有効と考えられる。

コメント（該当するセルに記入）

		Czaja 2008 の研究の介入は 1 つにまとめる								軽症例のみの値								